

# 京都地下鉄整備株式会社

## 第1 法人の概要

### 1 代表者

代表取締役社長 寺田隆志

### 2 所在地

京都市山科区安朱中小路町 15 番地の 4

### 3 電話番号

075-502-9001

### 4 ホームページアドレス

<http://kyoto-ss.co.jp/>

### 5 設立年月日

昭和 56 年 4 月 20 日

### 6 資本金

40,000 千円（うち本市出資額 22,000 千円，出資率 55.0%）

### 7 事業目的

- (1) 鉄道車両の整備
- (2) 鉄道施設の整備
- (3) 電気設備の整備
- (4) 不動産の運営及び管理

### 8 業務内容

- (1) 高速鉄道電力・電気設備点検の監理
- (2) 高速鉄道建築・機械設備等の監理
- (3) 高速鉄道車両の検査・整備等の監理
- (4) 高速鉄道の駅電気設備の監理
- (5) 北大路バスターミナル等の電気・機械設備等の監理

### 9 所管部局

交通局高速鉄道部営業課（TEL075-863-5213）

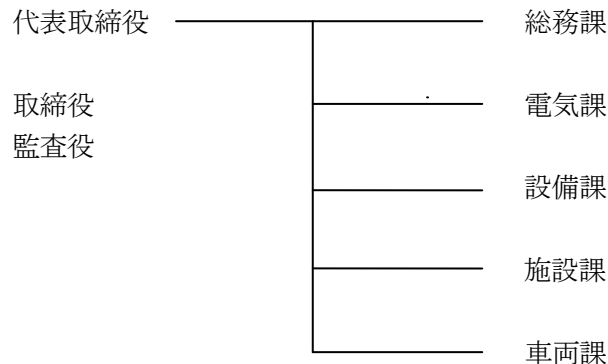
### 10 役員名等

- (1) 代表取締役社長  
寺田隆志
- (2) 取締役  
安田淳司（交通局企画総務部長），土田稔（交通局高速鉄道部長）
- (3) 監査役  
四方宏治

### 11 常勤職員数

42 人（うち本市派遣職員 0 人）

### 12 組織機構



## 第2 経営状況

### 1 平成28年度決算

#### (1) 事業報告

##### ア 事業の実施状況

###### (ア) 高速鉄道の電力関係

烏丸線の国際会館・竹田間13.7キロメートル15駅と東西線の六地藏・太秦天神川間17.5キロメートル17駅、全線31.2キロメートル32駅の電気室、変電所、電車線路、電力線路等について、整備・点検に係る監理業務及び修繕業務を行った。

###### (イ) 高速鉄道の車両関係

烏丸線車両120両、東西線車両102両を対象に、所定の定期検査等の作業に係る監理業務を行った。

###### (ウ) 高速鉄道の駅施設関係

建築・機械・昇降機・駅電気設備等の定期検査に係る監理業務や修繕業務を行った。

##### イ 当期の損益

当期の決算においては、売上高及び売上原価がともに減少しているが、平成27年度末の整備課の廃止の影響があるとともに、交通局受託業務の修繕費の実績が予算を下回ったことなどによるものである。

損益については、58万円の赤字となっているが、当初予算における468万円の赤字見込みに対し赤字幅を410万円縮減している。

これは、整備課の廃止に伴い所有していた車両4台を売却したため、車両売却益を特別利益として計上していること、及び交通局から借り受けている山科設備事務所の共益費の負担率の変更による経費の見直しなどによるものである。

平成29年度は、中期経営計画の最終年度となっており、計画においては収支均衡を目標として掲げている。

その目標に向け、できるだけ赤字幅を縮減するため、なお一層の受託業務の拡大及び経費の削減に努力していく。

##### ウ 今後の課題

赤字解消に向け、引き続き業務の効率化を中心とした経費の削減に取り組んでいくとともに、一層の受託業務の拡大を図っていく必要がある。

また、質の高い監理業務の遂行には、経験豊富な技術社員の存在が必須条件であることから、人件費削減を図りつつ、優れた人材の安定的な確保に努める。

## (2) 財務諸表

貸借対照表  
平成29年3月31日現在

(単位：千円)

資産の部		負債の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
流動資産	[194,890]	流動負債	[20,943]
現金・預金	78,316	未払金	8,497
有価証券	30,000	未払法人税等	180
前払金	3,264	未払消費税等	2,471
未収金	83,274	前受金	6
未収還付税金	36	預り金	1,039
		賞与引当金	8,749
固定資産	[20,687]	固定負債	[664]
(有形固定資産)	(268)	退職給付引当金	664
建物付属設備	13	負債合計	21,607
工具器具備品	255	純資産の部	金 額
(無形固定資産)	(419)	株主資本	[193,970]
電話加入権	419	資本金	[40,000]
(投資等)	(20,000)	利益剰余金	[182,770]
投資有価証券	20,000	利益準備金	10,000
		その他利益剰余金	(172,770)
		事業積立金	100,000
		別途積立金	50,000
		繰越利益剰余金	22,770
		自己株式	[△28,800]
		自己株式	△28,800
		純資産合計	193,970
資産合計	215,577	負債及び純資産合計	215,577

## 損益計算書

平成28年4月1日～平成29年3月31日

(単位：千円)

科 目	金 額	金 額
売上高		226,310
売上原価		195,128
売上総利益		31,182
販売費及び一般管理費		33,296
営業利益		△2,114
営業外収益		
受取利息	233	
雑収入	10	243
営業外費用		0
経常利益		△1,871
特別利益		1,473
特別損失		0
税引前当期純利益		△398
法人税, 住民税及び事業税		180
当期純利益		△578

株主資本等変動計算書

平成28年4月1日～平成29年3月31日

(単位：千円)

	株主資本							純資産 合計
	資本金	利益剰余金				自己株式	株主資本 合計	
		利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金 合計			
			別途積立 金等	繰越利益 剰余金				
当期首残高	40,000	10,000	150,000	23,349	183,349	△28,800	194,549	194,549
当期変動額								
当期純利益				△578	△578		△578	△578
自己株式の取得								
当期変動額合計	0	0	0	△578	△578	0	△578	△578
当期末残高	40,000	10,000	150,000	22,770	182,770	△28,800	193,970	193,970

2 平成29年度事業計画

(1) 事業計画の概要

ア 高速鉄道の電力設備監理業務

- (ア) 烏丸線：変電所（4箇所）、駅電気室等（19箇所）、電車線路等（13.7キロメートル）
- (イ) 東西線：変電所（5箇所）、駅電気室等（21箇所）、電車線路等（17.5キロメートル）

イ 高速鉄道の電気室・変電所日常点検業務

- (ア) 烏丸線：変電所（4箇所）、駅電気室等（19箇所）
- (イ) 東西線：変電所（5箇所）、駅電気室等（21箇所）

ウ 昇降機設備監理業務

- (ア) 烏丸線 15 駅 } 各駅駅舎等設置昇降機設備の保守業務の
- (イ) 東西線 17 駅 } 調整・監理等を行う。

エ 高速鉄道の駅電気設備監理業務

- (ア) 烏丸線 15 駅 } 各駅消防設備保守点検監理業務及び
- (イ) 東西線 17 駅 } 駅務機器保守点検監理業務等

オ 高速鉄道の建築・機械設備等監理業務

- (ア) 烏丸線 15 駅 } 各駅高速鉄道施設の建物・機械設備等の統括監理
- (イ) 東西線 17 駅 }

カ 高速車両保守及び作業監理業務

- (ア) 烏丸線：20 編成（120 両）
- (イ) 東西線：17 編成（102 両）

## (2) 予算

予定損益計算書  
平成29年4月1日～平成30年3月31日

(単位：千円)

科 目	金 額
売上高	233,000
売上原価	199,600
売上総利益	33,400
販売費及び一般管理費	33,700
営業利益	△300
営業外収益	
受取利息等	80
経常利益	△220
税引前当期純利益	△220
法人税, 住民税及び事業税	180
当期純利益	△400

## (参考1) 財務状況の推移

(単位：千円)

		H26 (決算)	H27 (決算)	H28 (決算)	H29 (予算)
損益計算書	売上高	279,409	260,639	226,310	233,000
	経常利益	△1,946	4,548	△1,871	△220
	当期利益	△2,126	4,368	△578	△400
	減価償却前利益	△1,775	4,673	△443	
貸借対照表	総資産	220,868	219,517	215,577	
	総負債	30,687	24,969	21,607	
	純資産	190,181	194,549	193,970	

## (参考2) 京都市からの補助金等

(単位：千円)

		H26 (決算)	H27 (決算)	H28 (決算)	H29 (予算)
委託料	高速鉄道等の施設, 車両の点検整備等の監理	281,270	280,151	243,076	

### 第3 経営評価結果

#### 1 所管局による経営状況の全般評価

財務面	<ul style="list-style-type: none"><li>平成 27 年度末の整備課の廃止と、交通局が委託している修繕業務の実績が予定を下回ったことによる売上高の減少によって赤字となっている。</li><li>しかしながら、整備課の廃止による車両の売却益などにより、赤字幅は予算額より縮減されている。</li></ul>
事業面	<ul style="list-style-type: none"><li>主に、高速鉄道施設の保守に係る業務を行い、高速鉄道事業の安全対策へ貢献している。</li></ul>

#### 2 外郭団体総合調整会議による評価コメント

財務面	<ul style="list-style-type: none"><li>業務の受注拡大による増収と経費の節減に努めることで、今後も黒字化に向けた取組を継続していただきたい。</li></ul>
事業面	<ul style="list-style-type: none"><li>安全な運行を確保するため、専門的な知識・技術を有する経験豊富な人材を確保しつつ、効率的な経営にも取り組んでいく必要がある。</li></ul>